

PHD LETTER

58

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

1996・3

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からじまりました。

発行：財団法人PHD協会

編集人：草 地 賢

住所：〒650神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202

TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867

郵便振替：01110-6-29688 財団法人ピー・エイチ・ディー協会

定 価：100円

- 第12回タイ・フォローアップ&スタディツアー報告…………… 3 P
- 研修生レポート、14期生紹介…………… 4 P



東北タイ、サイナワン

村人が集まる事務所の庭。
石でできた台の中央に市松模様。
子どもも集まってきてゲームを楽しむ。
厳しい村の生活の中に、こんなゆとり、いいね。

変貌するボッケオ村

まず初めに、嬉しいお知らせをしたい
 と思います。1月30日、水俣市より環境
 水俣賞をいただきました。水俣へは毎年
 西日本研修旅行の中で訪ね、水俣病セン
 ター相思社を中心に学びを得ていま
 す。その相思社の吉永さんから昨年6月
 にこの賞の紹介を受け、応募していたも
 のです。

この賞は「水俣市が産業や経済効率を
 優先した社会への警鐘ともなった水俣病
 の教訓を活かし、環境の保全、再生及び



創造に関する役割を積極的に担い、これ
 らに関する活動や調査研究の分野におい
 ての功績があった個人、団体を顕彰し、
 日本、世界の環境問題に貢献していくた
 めに創設したものです。4回目となる
 今回、PHD協会は共生社会部門におい
 て、国内の研修事業と研修生の帰国後の
 フォローアップを通じて、地域の自然風
 土にあった暮らしの自立を支援してきた

ことが認められ、受賞となりました。有
 機農法を重視した農業研修、森林保護を
 考慮した研修などが自然と共に生きる社
 会づくりへの貢献と評価されたもので
 す。ご報告とともに支えて下さる皆様に
 感謝申し上げます。

昨年暮れはタイに、研修生のフォロー
 アップとスタディツアーを兼ねて出かけ
 てきました。北タイのカレンの村と東北
 タイの村に帰った研修生を訪ねました。
 今回はチェンマイから車で3時間ほどの
 5期生コマさんが住む村、ボッケオの変
 貌に目を見張りました。86年の初訪問以
 来、行くたびに道路が良くなってきてい
 ましたが、今や車の普及と合わせ、チェ
 ンマイとの往き来がたいへん楽になって
 います。電気も幹線道路沿いには3年前
 に引かれました。自給自足に近い暮らし
 から、急激に変化しています。多くの村
 人の仕事は農業にかわりはありません
 が、自給を兼ねる作物から、イチゴ、
 菊、タロ芋といった換金作物にその中身
 は大幅に変わっています。村人の農業の
 時間も長くなったせいか、昼間に家を
 訪ねても留守のところが多くなりました。
 店の数も増え、その中には冷蔵庫も
 あり、冷たいコーラやビールも飲めま
 す。日に一回、チェンマイから生鮮食料
 品を積んだトラックが村にやって来ま
 す。家によっては電気炊飯器やポットも
 あります。便利さは格段に増し、町とさ
 ほど変わらない生活が可能になってきて
 います。

草の根の人々を訪ねて

Report from Asia and South Pacific

今回のツアーでは、ここから奥に半日
 入った、より自給自足に近い村ムシキ
 ーで先に暖かく迎えてもらったせいもある
 のか、ボッケオの村人の対応が、あっさ
 りしたというのか素っ気ないような印象
 をもってしまいました。お金に大きな比
 重がある生活、時間に追われる生活がも
 たらすものは何か、失うものは何か、考
 えてしまいました。

北タイでは、3期生プリチャーさん、
 4期生ウィラトさん、上記のコマさん、
 東北タイでは6期生ワラヤさん、9期生
 サウエーさん、89年度短期バムルンさん、
 91年度短期トンスクさんの世話にな
 りました。一人ひとりについて詳しくふ
 れる紙面がありませんが、皆、元気で、
 それぞれのおかれた立場で活動してく
 います。ワラヤさんが教員資格を取るべ
 く、農業の合間に勉強を続けていまし
 が、試験に通ったと聞きました。

既にお伝えしているように、95年は震
 災の影響で例年とは異なる事業展開とな
 りましたが、この4月からの新年度は、
 元の事業規模、内容に戻していきます。
 PHD協会単独での震災救援・復興の活
 動はひとまずおき、海外協力を軸にした
 事業中心で計画を立てました。まだまだ
 神戸の状況は完全に回復したわけではあ
 りませんが、皆さんのご支援を得て96年
 の事業をすすめていきたいと思ひます。

主任主事 藤野 達也

少し明るいネットワークが組まれています。
 昨年2月、うちひしがれた神戸に最初の復
 興の声を上げたのは南京町の華僑の神戸市民
 でした。今回彼らの進める祖国民緊急救援
 を、われわれのNGO救援連絡会議、YMC
 A、YWCA、生活協同組合、県市の国際交
 流協会、国際協力センターなどがネットワ
 ークを組んで後方支援するというものです。
 震災で生まれた地域の国際協力として少し
 ずつ注目と賛同を得ています。
 今連絡会議の事務局には、静岡県や東京都
 などの地方政府の役人がよく訪問されます。
 もし地震がきたらその時ボランティアの働き
 をどうまとめたらいいのか、そのためにどう
 という位置づけや行政との連携をすればよいか
 という質問です。

私は今回の地震を通じて、NGOが行政と
 どういう協力関係をつくらなければならないかを十分
 成功したとはいえない、しかし日常の中で行

政が市民を信頼し任せられるところは思い
 切って渡すほうがよい、その中から相互の信
 頼が生まれる、と言っています。ボランティ
 アを政府が下請けに使ったり、補完させたり
 するのでなく、対等なパートナーとして受け
 入れることが大切と言っています。

3月末で連絡会議は終了し、私はPHD協
 会に戻ります。しかし震災の中で培われつつ
 あるNGO、ボランティアと行政、政府との
 関係はより民主的に育てなければなりません。
 そのためにも実験地としての神戸の中
 で、何らかの継続したネットワークが求めら
 れています。この懸案をうまく調整し、5年
 は最低かかるであろう市民の復興への礎を築
 く働きが、残された1ヵ月半の連絡会議の仕
 事です。(1996年2月10日記)

阪神大震災地元NGO救援連絡会議 代表 草地 賢一

第12回タイ・フォローアップ&スタディツアー報告

今回で12回目を迎えたタイツアー。老若男女14
 名の参加者を得て行いました。

日程：95年12月23日～96年1月2日

10泊11日

コース：大阪～チェンマイ～ムシキー村～ボッケオ村
～チェンマイ～サイワウ～バンコク～大阪

いい笑顔、撮るならタイで

瀬谷 佳奈子

(神戸市・幼稚園教諭)

毎日、新鮮な出来事ばかりであつたと言
 う間に過ぎていった10日間。日本に帰ってタイ
 の写真を見ると、どの顔も私の中のとびき
 りの笑顔である。本当の豊かさや人間関係な
 ど今まで考えなかったことが考えられるよ
 うになってきた。

ないものがある。

山口 裕子

(堺市・高校教員)

ようやくたどりついた私たちをカレンの
 人々は暖かく迎え入れてくれた。私が気
 に入るのは囲炉裏。囲炉裏の回りにおじい
 さんも、子供も、集まって、囲炉裏の火でお母
 さんは食事を作る。私たちの国には「システ
 ムキッチン」という便利で合理的な台所を
 もっている人もいる。私もずっといつかはシ
 ステムキッチンをもちたいと思ってきたが、
 「火」のもつ暖かさ、「火」に人々が集う暖
 かさは私たちの国にないものだった。ガスが
 「ない」ということばかり考えていて私たち
 の国にないものが「ある」とは考えてい
 なかったでそんな自分にショックを受けた。

胃袋国際交流

山本 秀夫

(伊丹市・公務員)

村でいただいた手づくりの料理。たまご
 焼、モチ米、とれたての野菜におかゆにやき
 めしのおいしかったこと。とくにモチには稲
 の精霊が宿っていると考えられ、年の初めの
 食事には欠かせないことを教えてもらいま
 した。語学の不得手な私には、胃袋だけが達者
 に国際交流に励むことができました。

違いをこえて

上田 好毅

(加古川市・中学生)

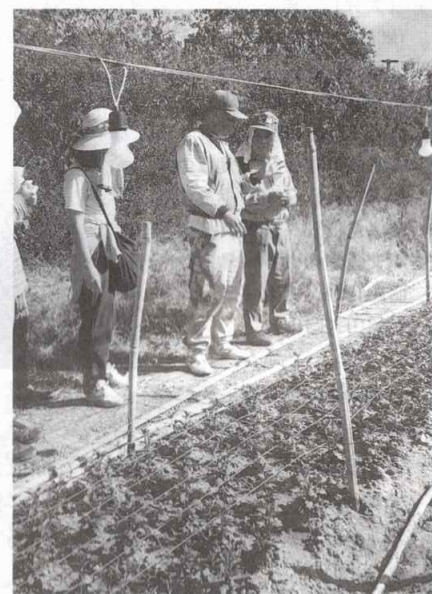
日本と外国は、言葉はもちろん、趣味、性
 格、習慣が違います。その違いの中には、見
 習うべきことがあり、そうでないこともあり
 ます。だから、お互いの国の違いを理解し
 合って、よいところは吸収し、悪い所は反省
 していけたら、すばらしいと思ひます。

「コケッコー、タイツアー」再び

藤井 隆至

(西宮市・大学生)

前回のタイツアーへの参加からもう8年、
 前の記憶をきれいさっぱり忘れ、新鮮に感
 じることができました。でも、もしかすると忘
 れてしまったのではなく、以前の面影を思い
 出せないほどタイが近代化してきたのかもし
 れません。自給自足型の経済から大衆消費型
 へ移行しようとしている現在のタイ。その一
 部に触れることができたと思ひます。



いつまでも星空の下のあの笑顔は忘れられま
 せん。

歌で渡るタイ

石坂 典明

(加古川市・公務員)

「音は世界に通じる」これは僕の特論であ
 る。言葉は通じなくても、ことばのイント
 ネーション、響き、動作、表情で気持ちは伝
 わるし、メロディは誰の心にも響くもの。歌
 や音楽に国境はない！歌は荷物にならない！
 僕はみんなの前で胸をはって大きな声で歌っ
 た。

火のあるところ、人集まり

野渡 佐江子

(神戸市・幼稚園教諭)

タイでの旅を思い出す時に、いつも出てく
 るのは「たき火」。パチパチという音がとて
 も心が落ち着くものだというのを初めて気付
 きました。火のある所には、不思議とみんな
 が集まり、会話も始まります。とても楽しい
 一時です。火はなくても、本当にあちらこ
 ちらで井戸端会議というか囲炉裏端というか、
 みんなが集まってしゃべっている光景を見ま
 した。

こどもと遊んで、考えたこと

横田 理恵

(神戸市・大学生)

村のこどもたちといろいろな遊びをしまし
 た。ダルマさんが転んだやハンカチ落としが人
 気でした。日本のこどもと違うのは物欲のな
 さです。全くといって物を欲しがらうとせ
 ず、また人を疑う心もなく、無邪気で、笑顔
 の絶えないのを見て日本のこどもとどちらが
 幸せなのかかわからない気持ちになりました。
 私は、ひそかに、物の数(量)と心の純粋さ
 は反比例の関係にあるのだなどと勝手に考え
 て満足していました。

田中です。8回目です。

田中 五郎

(兵庫県波賀町・農業・研修指導者)

カレンの山村を訪ねた後、チェンマイに戻
 り、短期研修生チャラムサク君の働くパヤ
 ップ大学地域開発研究所で話を聞いた。そこ
 では北タイの農村において、若者が町へ出、農
 村人口が減少していること、農村の生活が急
 激に変化しつつありその対応に苦慮している
 こと、生活物資と農産物価格の差が広がって
 いることなど日本の農村と同じような悩みを
 かかえていることを感じた。(6頁に続く)

星と笑顔

広瀬 純子

(高槻市・看護学校生)

一番印象に残っているのはムシキーで見た
 星空と子供たちの笑顔です。真暗で何も見
 えないうちで空を見上げた時のあの星。今ま
 だに見たことのない星の数であり、すごく近
 くに見え、感動してしまいました。子供たち
 のあの笑顔も星とかわらないくらいすばらしい
 ものでした。

神戸のまちから



震災後一年を経て街の外見は少し落ち着い
 てきました。この一年は非日常的なものが良
 くも悪くも日常化した一年でした。とくに全
 被災者30万人以上の人がおおよそ10
 万人ぐらいいまだ復旧にいたらない苦悩の
 中にいます。したがってこの人びとの生きる
 意欲の減退が静かな緊急事態を作りだしてい
 ます。急激に減少しつつあるボランティアの
 働きに反比例して、この状態はより悪くなる
 という悪循環の中、私たちも苦しいです。
 その中で去る2月3日午後7時14分(現地
 時間)またまた中国雲南で大地震が発生しま
 した。昨年5月27日のサハリン大地震緊急救
 援に続いて、再び苦しさの中で緊急救援活動
 を立ち上げました。しかし、今回はその中で

13期生

ビショさんとカエウさんが来日してから早いもので、もう8カ月が過ぎようとしています。日本語も少しずつ上達し、研修内容の理解も深まっています。

今回は、それぞれの専門の研修に加えて研修旅行について少し詳しく紹介いたします。

ビショジョティ・サブコタさん (ネパール)

但馬農業高等学校/安達一博氏/赤木重通氏/池淵健氏/松原美佐代氏/升田正則氏(兵庫・八鹿町、豊岡市、日高町、出石町)~東日本研修旅行~西日本研修旅行~ふえろう村(兵庫・小野市)~淡路島モンキーセンター(兵庫・洲本市)他~フィリピン比較研修~農業研修継続

チル・カエウさん(カンボジア)

太陽保育園/兵庫県和田山保健所/建屋診療所・岸政次郎氏宅、西村礼治氏(兵庫・八鹿町、和田山町、養父町)~東日本研修旅行~西日本研修旅行~尾崎食品株式会社(神戸市)~淡路島モンキーセンター他~フィリピン比較研修~帰国

ビショさん、カエウさんともテーマを絞り、ビショさんは土づくりをベースにした野菜栽培の方法、カエウさんは栄養のバランスに配慮した実際の調理方法についての研修を行っています。特にカエウさんは料理をつくるのが好きな様子で、どんどん新しいものに挑戦しています。そして、3月下旬にはフィリピン比較研修に出かけます。

14期生 紹介

ウピ・タンジュン

(24歳 女性)
インドネシア 西スマトラ州
研修内容 保健衛生



12期生ラディア・エリタさんの村アイルバンギスから選ばれた2人目の女性。家事手伝いの傍ら小学校で時々教えたり、診療所を手伝ったりしています。5人兄弟の末っ子です。

東日本研修旅行

近江兄弟社学園・彦根YMCA(滋賀)~横浜北小学校・福井県農業試験場(福井)~PHDひだ友の会・新宮小学校(岐阜)~塩尻めぐみ幼稚園(長野)~甲府教会(山梨)~全日本自動車産業労働組合総連合会・東京YMCA社会体育専門学校・さくら保育園(東京)~船橋YMCA・八千代台教会/三愛幼稚園(千葉)~まぶね教会・山崎の谷戸を愛する会(神奈川)~日本福祉大学(愛知)~和歌山県海友会(和歌山)

西日本研修旅行

下郷農業協同組合・下郷小学校(大分)~水保病センター相思社(熊本)~庄内町生活体験学校(大分)~東郷教会/東郷信愛幼稚園・北九州YMCA・祝町小学校・アジアを考える会(福岡)~下関丸山教会(山口)~広島YMCA/平和学習・桑本塾・三良坂中学校PTA・日影館高等学校・三良坂中学校(広島)~PHD 島根県支部(島根)~TIME「鳥取国際交流連絡会」(鳥取)~岡山YMCA/南北ネットワーク岡山(岡山)

毎年恒例の東・西日本研修旅行、今年度も多くの方々のご協力により実施することができました。交流会、学習会参加を通じてのリーダーシップ養成と水保、筑豊における社会学習、広島での平和学習がその目的です。

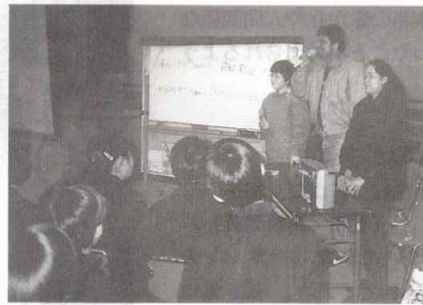
研修旅行での受け入れ先はだいたい定着してきていますが、ここでは今回初めてお訪ねできたところを紹介いたします。

長野県塩尻市にある「塩尻めぐみ幼稚園」

研修生レポート

「園」はこれまでも寄付でご協力いただいていたところでした。

まず、子どもたちとの交流。ネパールの人と出会うのはもちろん初めての経験。「ネパールで一番有名なものはな〜に?」との質問に「わからな〜い」との返事。まあ当然でしょう。エベレストという世界最高峰の山のある国から来たということならなじみやすいだろうと思い、「世界で一番高い山を知っている人」と子どもたちに尋ねたところ、たくさん手が上がり「ふじさ〜ん」との答。これには研修生も先生方も大笑いでした。



「ネパールで多い宗教は?」三良坂中の生徒にクイズを出す研修生。

ひと通り終わってからは、園長の原先生とお話したところ、アジアの草の根の青年をこのようなかたちで受け入れていくな、子どもたちのためにも続けていきたいとの感想を聞くことができました。

西日本では、これまで広島県庄原市を中心に上下町、口和町等の方々との交流を行ってきましたが、今回新しく三良坂町にある日影館高等学校の渡辺なおみ先生が企画から加わって下さいました。渡辺先生とは昨年秋に広島市内で行われた「広島開発

教育研究会」で知り合いました。

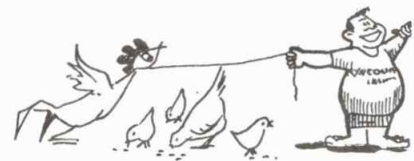
今回は、渡辺先生自身がメンバーでもある三良坂中のPTAに声をかけて私たちの受け入れを検討して下さい、PTA、三良坂中学校、そして日影館高等学校と三つの交流会を行うことができました。このPTAには5年前からこの研修旅行で研修生を受け入れて下さっていた山本泰章さんもメンバーだったため、打ち合わせも学校の先生方を交えて行って下さいました。PTAにはとても陽気な方が多く、私達を暖かく迎えて下さりカエウさん、ビショさんもお機嫌でした。中学校では全校160名位の生徒たちとの会では、スライドを使って研修生の出身地域の紹介をした後に、カンボジアとネパールについてクイズをしながら学びました。ここには、PTAの皆さんも集まって下さり、その熱心さには私達も元気づけられました。

昨年の渡辺先生との出会いがこのように広がっていったことも大きな成果だったと思います。研修生もPHD運動がどのように進められているのかを、多くの人との出会いの中から学ぶことができました。特にビショさんは、ネパールでメンバーとして関わっているグループの運営方法との比較から参考になることは多かったと話してくれました。

私の快適

国内研修生 谷 朱子

この半年間のPHD協会での研修を通じて、今まで知らなかったアジアや日本のこと、また、事務所の中や研修先等でPHDを支えて下さる人達に出会い、色々なことを考えました。ビショさん、カエウさんと一緒に研修に出かけて、彼らや彼らを受け入れて下さる人達の苦勞も少し知ることができました。研修旅行では「知っているつもりで知らなかった日本」「全然知らなかった日本」に出会いました。その中で私の研修テーマの一つであった「日本にいてできる国際協力」が本当にたくさんあると



帰国研修生短信

わたしたち KACHIN さん達の
Hundred Anniversary of the KACHIN
Literature のまつりにおよせをあげました。お礼は
12カ月の 25日から 1カ月の 2日までで
うりたものよ めさしお礼をあげた powderは
まゆのこたて おおしおの 12カ月に おせ
あいら (Food-oil)を おりて うりたの だり
おがらたおた。じんの かね 500 KYATS くら
しおらしたお かねたおら へて おらのおら
へたおら かくおらたおの おらた おんた
したて ACTIVITIESを うりたおら。おんたの
うりたおら。

12期生 トウンタウンさん・ビルマ
マンダレー州の村でウィンさん、ムームーさん、トゥンティンさんたちと村づくりにとりくんでいます。Kachinは山岳民族のひとつ KYATIはビルマ通貨チャットのこと

7期 トニー・ヨーケさん・パパア・ニューギニア

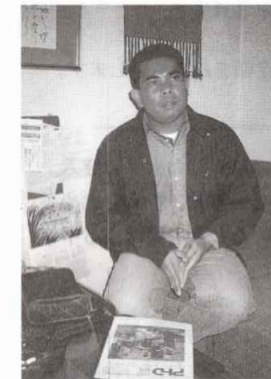
LDSの職員としてシンブー州の村カリムイで奥さんとともに農村開発の指導にあたっています。

PHD no mi na san genki desu ka? Watashi-taahi wa mi na genki desu. PNG wa ima ame desu
Boku wa PHD no mi na san kara O-tegami teki doki morai mashita, arigate gozaimasu
Ire ire na mondai no koto mo watashi mi te imasu sore mo watashi shinppai-shimasu. Mi na san gamba te ku da sai. Mi na san watashi-tachi no koto wasurenai de kuda sai.
Koko mande owarimasu mi na san sayonara
Watashi wa anata-tachi no tomedashi Toni Yoke desu.

アフナルさんが訪ねてきてくれました。

昨年夏のスマトラ訪問時には会うことのできなかった6期生アフナルさんが研修中にお世話になった方の一周忌に招かれ、昨年暮れに来日、事務所を訪ねてくれました。

現在はバンドンにある大学で日本語を勉強中です。インドネシアで大学に行くということは費用の面からも大変なことですが、奨学金やアルバイトをしながらやっているそうです。日本では漁業を中心に研修を行いました。語学の才能に目覚め、村の発展に貢献するために、国と国、人と人をつなぐことをめざしています。自分たちの暮らしはこんなものかと思こんでいる村の人たちの意識を変えていくことに役立ちたいと話してくれました。



感じました。

アジアや日本の問題に出会うたびに、それらのうちのどれも私の毎日の暮らしと関係のないものはないということを改めて実感しました。広島で原爆の事を学んだ時は、原発なしには成り立たない程の電気を消費する自分の生活のことを思い出しました。水保では、工業製品なしでは私の暮らしは考えられないことを思い出しました。モンキーセンターへ行ってからは、毎日食べているものについて考えるようになりました。

今の私の便利な生活は、色々なものや人の犠牲の上に成り立っています。どこで、何が犠牲になっているのかが具体的に見えていかなかったら、「便利」を減らすのは大

変な事だと思えます。けれども、私はこの半年間で犠牲になっているもののいくつかに出会うことができました。そうすると、何かを犠牲にしている「便利」を減らすことは私の「快適」だと自然に思うようになりました。今は無駄なものを減らしていくことしかできませんが、少しづつ私の「快適」を増やしていこうと思っています。

この半年間で私が出会ったことを他の人とも共有して私と同じ「快適」を感じてくれる人が増えたら、なくていいはずの色々な「犠牲」が消えていくのではないのでしょうか。そのために、これからも私の暮らしの「犠牲」になっているものを知り、それをなくす努力を続けていきたいと思えます。

(3頁から続く)

東北タイの農民運動リーダーから学ぶ

平野 智之
(大阪市・高校教員)

バムルンさんとアドさんからビデオを見ながら農民運動についてレクチャーを受けた。農民の借金地獄、鉱山の公害、民主的リーダーの暗殺、そしてカラバオの歌。日本の60年代の労働運動などに近い感じがした。ムシキー、ボッケオと来て、PHDのDについて考えはじめていた。開発、発展によって得るもの、なくすものがある。人間が大切にされない発展には異議申し立てをする。バンコクと村の貧富の差、一方を犠牲にした富、それらにバムルンさんは抗議しているようだ。



〈布の織り手のグループとの
会合からの報告〉
安田 有紀子
(神戸市 大学生)

「なぜ日本人は和服をいつも着ていないのですか」と村人から質問があった。私たちが村人の織る布に対して、伝統を大事にして下さいと軽々しく言えるだろうか。日本人からは「着るのが面倒、値段が高い、動きにくい」と答えがあった。安

くて手間がかからないものを求めているのは、私たちも村人も同じなのだ。私たち自身が伝統を取り戻す努力をして初めて彼女たちに伝統を求めることができるのではないだろうか。

★お待たせ、新しい布が届きました。詳しくはお訪ね、お尋ね下さい。★

PHD NEWS

〈会費・ご寄附寄託状況〉

1995年11月	73件	4,145,401円
12月	762件	6,579,293円
1996年1月	321件	3,942,737円
	1,156件	14,667,431円

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴いたしました。

また、前号同封のカレンダーでお願いしました年末募金は、久しぶりの方々からもお寄せいただくことができました。

皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。

〈環境水俣賞、いただきました〉

1月30日に水俣市で第4回環境水俣賞を受賞いたしました。詳しくは「草の根の人々を訪ねて」をご覧ください。

〈ホストファミリー募集します。〉

14期生4名(男女各2名)の来日は4月下旬の予定で準備を進めていますが、下記の要領で滞家庭を募集します。詳しくはお問い合わせ下さい。

- ★神戸・三宮に1時間以内で通える範囲の家庭
- ★4月下旬～6月下旬の毎日とそれ以降は1ヶ月7日間程度で来年3月まで。
- ★朝・夕、宿泊経費として当会規定額をお支払いします。

〈震災復興募金のご報告〉

震災直後よりご協力いただいた上記募金は総額3,150,906円(205件)となり、次の通り用いさせていただきました。ありがとうございました。

交通費・運搬費	¥1,136,939
通信費	¥ 270,080
機材・消耗品費	¥ 38,801
印刷・記録費	¥ 97,450
人件費補助	¥ 416,115
プログラム	
・ボランティアセミナー 6回	¥ 69,471
・農業体験プログラム 5回	¥ 635,484
・海外ボランティア復興コンサート	¥ 386,566
・その他	¥ 100,000
合計	¥3,150,906

〇月×日のPHD協会

職員 草地 2月中旬から連絡会議を通して震災支援したサハリンへ。その前後に雲南、イリアンジャヤ、ペルー沖で地震。神戸の経験を生かす場は本当はない方がいい、と考えながらの活動。

職員 藤野 気がつけば40の大台に突入。周囲から歳にふさわしい言動、行動を求められ、その声に対していたわりを要求する中年オヤジとなる。

職員 小松 金利低下による利息収入の減を補うべく、Tシャツ、カードなどの物販収入の増に策を練る。無駄な消費を煽って収益をあげても本末転倒、と思案の毎日。

職員 吉岡・渡辺 昨年暮れに相次いでご結婚。暗い話題の多かった95年を局地的に明るく締めくくる。吉岡さんと渡辺さんが結婚しましたが、ふたりが一組になったわけではないのでお間違えなく。

編集後記



タイスタディツアーの報告会が、協会事務所でありました。「おやつ大歓迎」という呼びかけで、思わぬ量のおやつが集まり、リッチな報告会となりました。出席者は、ツアー参加8回、71才です。お元気な田中さんを頂上にさまざまな老若男女約30名、PHDの年齢層、風貌層の厚さに驚いた新入会員の私でした。

ツアー日程のなかにチェンマイYMCA宿泊とあるのを見て、私はとても懐かしい思いがしました。18才の夏、初めて行ったリュック旅行で私も泊まったからです。木造の清楚な建物で、泊まった大部屋は1パーツでした。玄関にいるタイの若者たちに、私の好きな歌「若者たち」をハーモニカで紹介したのを覚えています。

あれから24年、YMCAも立派なビルになったそうです。チェンマイの市場で商売気のない少数民族の人から買った布袋は、ソディの布と同じものだったのかもしれない。

40才のとき、妻の暖かい理解で、15年ぶりにアジアを旅し、旅人ではなく生活人として語り合いたい、という思いを持ちました。そしてPHDの事務所を訪れたのです。報告会のお話は、生活人としての語り合いのように思えました。PHDでのふれあいやレターの編集を通して、人々と語り合っていきたいと感じています。

土曜日の宛て名チェック人

〈編集メンバー〉

- 石坂 昌弘、 篠原 登子、
- 谷 朱子、 谷川 須美、
- 渡辺 奈奈

新規会員・寄付者ご芳名は、 個人情報保護のため 掲載しておりません。

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため
掲載しておりません。